

国民の皆様へ

～ こどもが自ら命を絶つことのない社会の実現に向けて ～

みなさん、こんにちは。こども政策担当大臣の 黄川田 仁志 です。

近年、自ら命を絶ってしまうこどもの数が増えています。令和7年の小中高生の自殺者数は 532 人と過去最多になる見込みです。こども政策担当大臣としても、この事態を大変重く受け止めています。

こどもたちは、悩みや不安、孤独を抱えながら、「生きたい」という声が受け止められることのないまま、苦しんでいたのかもしれませんが。こうした状況は、決してこどもだけの問題ではなく、社会全体で向き合うべき重大な課題——すなわち、私たち一人ひとりの問題です。

私は、こども政策担当大臣として、また、責任ある大人のひとりとして、この極めて深刻な状況に対して、国民の皆様とともに、これまで以上にこどものこころに関心を向け、こどもの変化やかすかなSOSに気付き、不安や悩みを受け止め、こどもに寄り添い、互いにつながり続けていく社会をつくりたいと考えています。

まずは、我々大人が、こどもから信頼され、こどもが「相談してもいい」と思える存在になることが大切だと思います。国民の皆様におかれては、勇気を持って相談してくれたこどもには「よく相談してくれたね」と言葉をかけてあげてください。また、身近にいるこどもの様子がいつもと違うと感じた時には、声をかけ、話を聴いてみてください。こどものところに寄り添った声かけや見守りが、こどもたちの不安や孤独感を和らげ、「生きていける」と思えるきっかけにつながります。また、状況によっては、相談しやすい方法をこどもと一緒に考えながら、こどものためのさまざまな相談窓口に、こどもたちをつなげてください。

こどもが自ら命を絶つことのない社会の実現を決して諦めず、国民の皆様と想いを一つにして、引き続き全力で取り組んでまいります。こどもが不安や悩み、孤独を一人で抱えなくてもいい社会を一緒に作っていきましょう。まさに今、皆様のそばにある「こどもの命」を守るために、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

令和8年1月29日

こども政策担当大臣

黄川田 仁志

こども家庭庁 悩みを受け止める場に関するプロジェクトチームウェブサイト

「こどもの悩みに寄り添える社会へ」

- ▶ 全てのこどもが信頼できる大人に自分の思いや悩みを打ち明けられることができる環境づくりに向けて、メッセージの発信や、相談窓口の紹介を行っています（プロジェクトチームの取組はこちら）



（相談窓口の一覧はこちら）

